

平成30年11月22日

平成30年度第8回定例松本市教育委員会

会 議 議 案

松本市教育委員会

平成30年度第8回定例松本市教育委員会付議案件

[ 議案 ]

- 第1号 松本市立小・中学校における教育職員の働き方改革の指針の制定について

[ 報告 ]

- 第1号 放光寺教員住宅跡地における廃棄物の成分分析結果について  
第2号 第17回“子どものこころとからだの問題を考える”  
～学校関係者と学校医のつどい～の開催結果について  
第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査の分析と考察について  
第4号 中央公民館の会議室の整備について  
第5号 史跡小笠原氏城跡の追加指定について

[ 周知 ]

- 1 平成31年松本市成人式の開催について
- 2 松本市立博物館本館・分館の企画展開催について
- 3 松本城三の丸跡土居尻第9次発掘調査現地説明会の開催について

[ その他 ]

教育委員会資料
30.11.22
学校指導課

議案第 1 号

松本市立小・中学校における教育職員の働き方改革の指針の制定について

1 趣旨

学校現場における教員職員の働き方を改善するため、上記指針を策定するものです。

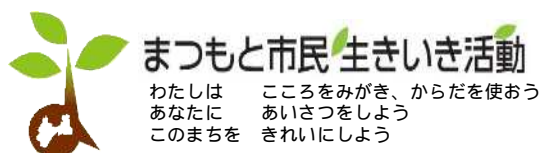
2 松本市における教育職員の働き方改革の指針(案)

別紙1のとおり

3 施行期日

平成30年12月1日

担当	学校指導課
課長	横田 則雄
電話	33 - 4397



# 松本市における教育職員の働き方改革の指針（案）

## 1 方針策定の背景と目的

近年の社会情勢の大きな変化に伴い、学校が抱える教育課題は複雑化・困難化するとともに、学校に求められる役割は拡大・多様化しており、学校だけでは解決できない課題も増えています。

このように学校現場を取り巻く環境が変化する中、教職員の職務は多岐にわたり、その時間的、精神的負担が増大し、全国的な課題として、その対応が求められています。

長野県教育委員会では、平成26年3月に「教職員の業務を改善し、子どもと向き合う時間の確保・充実を図るための総合的な方策」を策定し、時間外勤務時間調査を行い、縮減の数値目標を設け、学校業務の改善や教職員の負担軽減の状況把握を行い、業務改善に取り組んできています。

この間、松本市教育委員会や市内の各学校においても業務改善を推進してきましたが、時間外勤務時間の縮減が思うように進まず、平成29年度（12月）の1カ月一人当たりの時間外勤務時間平均は58時間、最も多い学校の平均は87時間となっています。また、中学校における一人当たりの時間外勤務時間の平均を小学校と比較すると、中学校は16時間多く、特に休日勤務が多いことから、部活動指導に係る負担が大きい現状となっています。

そこで、松本市教育委員会では、本方針を策定し、市内の学校や関係諸団体と連携をさらに密にし、保護者や地域の方々のご理解、ご協力をいただきながら、学校現場における業務改善の取組みを強力に推進することとします。

なお、本方針は、3年を目途に必要な見直しを行います。

## 2 基本理念と重点目標

教職員の本来業務の質的向上と子どもと向き合う時間の確保を図り、ワークライフバランスを意識した働き方を実現するために、基本理念と重点目標を以下のとおり定めます。

### 《重点目標》

- (1) 教職員の時間外勤務時間が年間を通して1カ月45時間以下、4月及び5月の時期については上限80時間以下（小学校は70時間以下）になることを目指します。
- (2) 緊急または学校行事等でやむを得ない場合を除き、午後8時以降の勤務をなくすよう取り組みます。

## 3 基本的な考え方

学校現場における教職員の業務改善を継続的に進めるため、教育委員会が積極的に関わりながら、現状を適正に把握し、出来ることから逐次改善策に取り組むとともに、対策実施後の効果把握を行い、対策の改善・充実を図ります。

これらの取組みをPDCAサイクルとして繰り返し実施し、業務改善を強力に推進していきます。

#### 4 具体的な取組み

(1) 「勤務時間」を意識した働き方を進めます。

ア 適正な勤務時間を把握するため、タイムカード等を使用した出退勤管理システムの運用により、勤務時間の「見える化」を図り、教職員自身の勤務時間への意識を高めるとともに、管理職が、年間を通して、全ての教職員の勤務時間を把握します。

イ 「勤務時間の割振り」の着実な運用を進めます。

ウ 「長野県中学生期のスポーツ活動指針」に準じ策定した、「松本市中学生期のスポーツ活動の指針」の部活動の運用を徹底します。（小学生の部活動もこれに準ずる。）

（具体例）

中学校においては、週2日以上（平日に1日と土・日のいずれか1日は必須）の休養日を設ける。

なお、大会への参加などにより、やむを得ず土・日に活動する場合は、代替休養日の確保に努める。

(2) 教職員の意識改革を図っていきます。

ア 学校長をはじめ、教職員自らが今の働き方を見つめ直し、時間外勤務時間を削減し、ワークライフバランスを意識した働き方の実現に向けて取り組んでいけるような業務改善・働き方改革に係る研修を随時行います。

イ 心身ともに健全な働きやすい職場づくりを推進するため、教職員自らが業務改善に取り組めるような意識改革を図ります。

ウ 年次休暇の取得率の向上を図ります。

(3) 学校・教員が担うべき業務を明確にし、業務の削減や分業化、協業化を進めます。

ア 市の依頼する会議・調査を見直すとともに、通知文書の精選等に努めます。

イ 学校、教員でなくてもできる業務については、コミュニティスクールを中心とした地域によるサポートと行政による人的・財政的な支援を含めたサポートを強化します。

ウ 部活動指導員の効果を検証し、活用の推進を検討します。

エ 学校徴収金業務の負担軽減に向けた取組みを推進します。（平成30年度から給食費の公会計化を検討しています。）

(4) 学校・教員が担うべき業務の効率化、情報化を進めます。

ア 統合型校務支援システムの導入・利活用に向けて研究を進めます。

イ 教職員業務の効率化と合理化を一層図るため、ICTの有効な利活用を進めます。

(5) 学校の業務環境の改善を進めます。

ア 原則学校の開錠時間を7時以降、施錠時間を20時までとするなど、学校の開錠・施錠時間の設定や、保護者、地域住民への周知方法について検討していきます。 ま

た、地域の交通事情や個々の教員によるワーク・ライフ・バランスを図ることを目的とした早朝出勤などの実情を踏まえた開錠時間の弾力的な運用の在り方や、勤務時間外の電話対応の在り方についても、あわせて検討していきます。

イ 長期休業中において必要に応じて閉庁日を設けます。

ウ 長期休業期間中の働き方については、テレワークによる勤務などを研究し、実施します。

エ 月2回以上の「教職員定時退勤日」をすべての学校で設定し、実施します。

## 5 評価指標

評価指標	測定方法
教職員の時間外勤務時間が年間を通して月45時間以下の教職員の割合	年間を通した一人当たりの時間外勤務時間の平均が月45時間以下の教職員数で測定し、平成30年度当初に目標値を提示 (目標値：35%)
4月及び5月の時間外勤務時間が小学校においては70時間、中学校においては80時間以下の教職員の割合	4月及び5月の一人当たりの時間外勤務時間の平均が小学校においては、月70時間以下、中学校においては80時間以下の教職員数で測定し、平成30年度当初に目標値を提示 (目標値：70%)
午後8時以降に勤務している教職員の割合	午後8時以降に勤務している教職員数で測定し、平成30年度当初に目標値を提示 (目標値：10%)
勤務時間を意識して生活できるようになったと実感できた教職員の割合	教職員への学校評価項目で「勤務時間を意識して生活できるようになった。」の評価で測定し、平成30年度当初に目標値を提示 (目標値：60%)
学校評価における業務改善に関する評価項目を設定	教職員への学校評価の評価項目で測定し、平成30年度当初に目標値を提示 自分の働き方を見直すことができた。 (目標値：40%) 子どもと向き合う時間が増えた。 (目標値：15%)

## 報告第 1 号

## 放光寺教員住宅跡地における廃棄物の成分分析結果について

## 1 趣旨

放光寺教員住宅解体工事において地下に確認された廃棄物について、ダイオキシン類他 8 項目の成分分析を行いましたので、その結果について報告するものです。

## 2 経過

- 30.7.9 解体業者から廃棄物（焼却灰、がれき及び廃タイヤ）が発見された旨の報告
- 8.21 教育民生委員協議会へ確認された廃棄物について報告
- 9.7 (株)環境検査センター長野営業所へ焼却灰の成分分析を依頼
- 10.4 (株)環境検査センター長野営業所から成分分析の結果報告を受理

## 3 成分分析結果

- (1) ダイオキシン類含有試験  
基準値以下
- (2) 重金属等溶出試験（アルキル水銀化合物等 8 項目）  
全て基準値以下

## 4 今後の進め方

同時期に発見されたがれき及び廃タイヤと同様、業者委託により処理します。

担当	学校教育課
課長	麻田 仁郎
電話	33 - 9847



第17回“子どものこころとからだの問題を考える”  
～学校関係者と学校医のつどい～の開催結果について

## 1 趣旨

子どもたちの心身の健康について、学校関係者及び医療関係者が共に学ぶ機会として標記のフォーラムを開催しましたので、その結果について報告するものです。

## 2 主催

松本市、松本市教育委員会、（一社）松本市医師会

## 3 開催日時および場所

平成30年11月10日（土） 午後1時30分から4時30分まで  
Mウイング 6階 ホール

## 4 参加者数

83名（学校関係者68名、医師会関係者15名）

## 5 テーマ

「がん教育について考える」

## 6 内容

## (1) 基調講演 「学校におけるがん教育

～子どもたちががんについて学ぶことの価値を考えよう～」

長野県教育委員会事務局 保健厚生課 鈴木 亜希子 氏

## (2) パネルディスカッション

発表	松本市立山辺小学校	養護教諭	小野澤 泉 先生
発表	松本市立会田中学校	養護教諭	宮島 雅子 先生
発表	松本市健康づくり課	保健予防担当係長	藤松 美紀 氏
発表	松本市医師会	会長	杉山 敦 先生

## 7 成果

- (1) 基調講演では、がん教育について実例を交えながら説明していただき、子どもたちへのがん教育の必要性について出席者の理解を深めることができました。
- (2) パネルディスカッション及び発表では、学校でのがん教育の取組事例、松本市のがん検診事業、ピロリ菌感染症と胃がんについて発表され、今後の課題や病気の知識の共有が図れました。

学校教育課

課長 麻田 仁郎

電話 33 - 9846



まつもと市民生きいき活動

わたしは こころをみがき、からだを使おう  
あなたに あいさつをしよう  
このまちを きれいにしよう





鈴木氏による基調講演



客席の様子



養護教諭による発表



パネルディスカッション

第17回 子どものこころとからだの問題を考える～学校関係者と学校医のつどい～  
平成30年11月10日(土) Mウイング6階ホール

教育委員会資料
30.11.22
学校指導課

報告第 3 号

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析と考察について

1 趣旨

本年4月に実施した「平成30年度全国学力・学習状況調査」の分析と考察が、松本市校長会学力調査検討小委員会の協力によりまとめられましたので、その概要を報告するとともに、別添資料「平成30年度全国学力・学習状況調査の分析と考察」の内容について協議するものです。

2 調査の概要

(1) 調査の内容(詳細は、別添資料参照)

ア 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

〔国語A、算数・数学A〕主として「知識」に関する問題を中心とした出題

〔国語B、算数・数学B〕主として「活用」に関する問題を中心とした出題

〔理科〕主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

イ 質問紙調査(児童質問紙、生徒質問紙)

児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調

査

(2) 調査期日 平成30年4月17日(火曜日)

3 結果の概要(詳細は、別添資料参照)

(1) 教科に関する調査結果の概要

本市の傾向として、すべての教科において、長野県(公立)及び全国(公立)の平均正答率とほぼ同程度となっています。また、各教科における学習指導要領の領域・区分等の平均正答率の状況から、すべての教科で、バランスよく正答している様子が読み取れます。

一方で、算数では、正答数を示す分布の様子から、問題数のうち9割を超える正答があった児童の割合が全国と比べてやや低く、国語、算数・数学の「活用」に関する問題では、全体的に正答率が低い傾向が見られました。

(2) 児童生徒質問紙調査に関する状況

本年度は算数・数学及び理科に関わる質問項目がそれぞれ十数問あり、相当な割合を占めています(理科は3年に一度実施)。小中学校における状況は以下のとおりです。

ア 小中学校共通

・「地域への関心の高さ」や「読書好きの子どもが多い」ことが例年までと同様に挙げられます。

・理科の授業で週1回以上観察や実験を行っている割合が全国平均と比べて20ポイント以上高い結果でした。

・自己肯定感の高まりが特徴として挙げられます。「自分には、よいところがあると思いますか」という質問は、本調査が始まった平成19年から継続されてきている項目です。経年変化から小中学校ともに、肯定的な回答は増加傾向にあり、本年度調査では、小学校で8割超、中学校でも8割に迫る肯定的な結果となっています。

イ 小学校

・「今住んでいる地域の行事に参加している」に9割の児童が肯定的な回答をしました。

- ・「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」との質問に、肯定的に回答した児童の割合は5割を下回りました。

#### ウ 中学校

- ・「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか」の問いに、「家で読書や勉強をしている」と回答した中学生は全国平均より15ポイント高い状況でした。
- ・「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に、肯定的に解答した生徒の割合は、平成27年度調査に比べて、若干の増加は見られたものの、6割を下回っています。

### 4 学力状況と相関関係のあった項目で今後大事に取り組みたいこと

- (1) 「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある」「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会がある」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向があります。これは、昨年度の本市における分析と考察で、学力との相関がありつつも、課題として取り上げ、本年度力を入れている「総合的な学習の時間」の取り組みとも関係付けることができます。子どもたちの資質・能力を育成する具体的な学習過程の構築のために、好奇心や探究心、対象への親しみからくる願いや問いをもつことが大切です。また、総合的な学習の時間は、他教科とのつながりや活用の他に、積極的に社会参画しようとする態度を育てていくことも期待できます。それは対象を俯瞰して捉え、課題の探究から自己の成長と結び付けること、社会の形成者としての自覚をもつことにより育まれます。

さらに、松本版コミュニティスクール事業の観点から、子どもたちの活動や学習の場を学校から地域・社会にまで拡張し、自ら主体的に取り組むことができるよう、学校と地域とが連携・協働していくことも重要です。

- (2) 主体的・対話的で深い学びの視点から、自分で計画性をもって勉強をすすめていくこと、児童生徒間の話し合う活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることと、各教科の平均正答率との相関関係はあるといえます。「何を学ぶか」を大切にしながら、「何ができるようになるか」の実現のために、「どのように学ぶか」を一層重視した授業改善を具現化していくことが求められます。

### 5 今後の対応

- (1) 分析と考察の公表について

#### ア 市の公表

11月下旬を目途に、市ホームページで公表します。

#### イ 各学校の公表

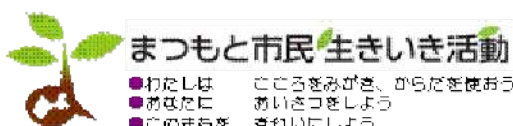
各市立小中学校では、11～12月頃を目途に、他の客観的な評価テスト等も参考にしながら、児童生徒の学力及び学習状況並びに今後の具体的な方策について保護者や地域に公表する予定です

- (2) 学校指導課による今後の支援

ア 全市の分析・考察をもとに、今後も学校訪問を続け、授業をもとに課題となる部分について助言します。特に児童生徒の実態をもとにした授業づくりをするなど、各校の更なる学力向上に向けた取組みを支援していきます。

イ 平成31年1月に第3回学力調査検討委員会（全体会）を開催し、各学校の成果や課題を持ち寄って、次年度に向けての具体的な方策を検討します。

担当	学校指導課
課長	横田 則雄
電話	33 - 4397



「学都松本」

平成 30 年度

# 全国学力・学習状況調査の分析と考察

(平成 30 年 11 月)

松 本 市 教 育 委 員 会  
松本市校長会学力調査検討委員会

# 平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の分析と考察

## — 目 次 —

1	概要	P 1～
2	各教科に関する分析と考察	
	小学校 国語	P 4～
	中学校 国語	P 6～
	小学校 算数	P 8～
	中学校 数学	P 10～
	小学校 理科	P 12～
	中学校 理科	P 14～
3	生活習慣等に関する質問紙調査の分析と考察	
	小学校	P 16～
	中学校	P 18～

- 概要の「教科に関する調査結果の概要」では、平均正答率が9割程度、もしくは9割を上回っている問題や領域を「相当数の児童生徒ができています」という表現を使っています。
- 各教科の「調査結果の概要及び主な特徴」では、学習指導要領の領域・分野の項目別に、特に定着（成果）や課題、改善の傾向が見られることを示しました。  
凡例： (A) …**A問題**から定着（成果）や改善の傾向が見られる事項  
 (B) …**B問題**から課題がある事項  
 (A・B) …**A/B問題共通**で、定着（成果）や改善の傾向が見られる事項  
 または …**A・B問題**の区別がない**理科**における定着や改善または課題がある事項
- 各教科の「課題及び指導改善に向けて」では、特に課題と思われる問題を取り上げ、「課題が見られた問題について」「指導の改善・充実に向けて」の項目で、問題の趣旨や解答状況、誤答につながった要因、授業改善の具体的な方向を示しました。
- \* 表記については、長野県や全国の平均正答率も参考にしながら、平均正答率7～8割程度を基準に「定着している」「身に付いている」、5～6割以下を「課題がある」としました。
- 生活習慣等に関する質問紙調査については、全体的な傾向や主な特徴等をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。（例：全国が30%、松本市40%の場合、松本市は全国を「10ポイント上回る」と表現しています。）また、数字は小数点第一位を四捨五入しています。
- 本調査は、国語、算数・数学、理科の3教科のみであるため、必ずしも学習指導要領全体を網羅しているものではありません。よって、本調査は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部であることにご留意ください。

# 「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の分析と考察」の概要について

松本市教育委員会  
松本市校長会学力調査検討委員会

## 1 趣旨

本年 4 月に実施した「平成 30 年度全国学力・学習状況調査の分析と考察」における松本市の結果について、調査結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

## 2 調査概要

### (1) 調査対象

小学校第 6 学年、中学校第 3 学年

### (2) 調査実施日

平成 30 年 4 月 17 日（火曜日）

### (3) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

〔国語 A、算数・数学 A〕主として「知識」に関する問題を中心とした出題

〔国語 B、算数・数学 B〕主として「活用」に関する問題を中心とした出題

〔理科〕主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

イ 質問紙調査（児童質問紙、生徒質問紙）

児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

## 3 調査結果

### (1) 教科に関する調査結果

本市の傾向として、すべての教科において、長野県（公立）及び全国（公立）の平均正答率とほぼ同程度となっています。また、各教科における学習指導要領の領域・区分等の平均正答率の状況から、すべての教科で、バランスよく正答している様子が見取れます。一方で、算数では、正答数を示す分布の様子から、問題数のうち 9 割を超える正答があった児童の割合が全国と比べてやや低く、国語、算数・数学の「活用」に関する問題では、全体的に正答率が低い傾向が見られました。

本年度の結果から見られる各教科の主な傾向については、次のとおりです。

小学校  
国語

- ▶ **成果** 相手や目的に応じて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと、慣用句の意味を理解して使うことは、相当数の児童ができています。互いに立場を決めて計画的に話し合う場面では、参加者として質問の意図を捉えたり、司会の役割について捉えたりすることが、よく身に付いています。
- ▶ **課題** 「くらやみの物語」を読み、心に残った一文を取り上げて、その理由を説明する問題では、物語のあらすじと登場人物の状況・情景描写表現を関係付けて捉えることに課題があります。また、「献立を推薦する文章を書く」問題では、複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関係付けて理解、表現することに課題があります。

中学校  
国語

- ▶ **成果** 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、必要に応じて適切な質問をすることはできています。また、昨年度同調査で課題として挙げられた「行書の基礎的な特徴や書き方」についての理解は、改善の傾向が窺えます。
- ▶ **課題** 文を書く際に、文章構成や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことを適切に相手に伝えるように書くことに課題があります。また、「天地無用」を誤用する人が多い理由を答える問題では、文章構成や展開を踏まえて、解答に必要なかつ十分な内容を捉えることに課題があります。

小学校算数

- ▶ **成果** 二つの異なる量がある場合、単位量を設定することで比較できるという、「比べ方」や、図形の基礎となる「角」の概念に関わる問題は、相当数の児童ができています。算数の問題場面から分配法則を用いた手順を理解し、条件変更した場合でも同様に表現できることが、おおむね身に付いています。
- ▶ **課題** 問題場面から数量の関係を捉え、数直線上に表す問題では、1 mの重さ□ gの位置について、7割を超える児童は数直線上で捉えることができていましたが、針金の長さや重さの0.4と60、1と□を対応させることができていない児童が多くいました。また、合同な図形で敷き詰められた模様に関する問題では、図形の構成要素や性質を基に考察することに課題があります。

中学校数学

- ▶ **成果** 点の位置を座標平面上に示すこと、代表値としての最頻値についての理解、球が回転体としてどのように構成されているかの理解、見取図、投影図から空間図形を読み取ることは、定着しています。
- ▶ **課題** 長方形を回転移動した図形をかく問題では、回転の中心の位置や方向性について誤答が多くありました。確率の問題では、不確定な事象の起こる程度も多数回試行により、ある安定した値をとるという「大数の法則」を基として、確率の意味を理解することに課題があります。「バスツアー」の値引率に関する問題では、基準量や比較量を捉えているものの、百分率として表現することができなかつたり、別の会社の値引率を求めたりする生徒が多く、無解答も多い結果でした。

小学校理科

- ▶ **成果** 観察、実験から得られたデータと現象を関係付けて考察することについては、相当数の児童ができています。また、結果を見通して実験を構想すること、実験結果を基に自分の考えを改善することは、同様の趣旨で出題された平成27年度前回調査と比較して、改善の傾向が見られます。
- ▶ **課題** 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題では、条件を的確に捉えて表現することに課題があり、学習して得た知識をもって解答してしまう児童が多く見られました。また、「太陽の位置と光電池」の問題では、提示された目的に対してこれまで得た知識を応用し、自身の経験と結び付けながら解答することに課題があります。

中学校理科

- ▶ **成果** 基本的な科学的概念や技能はおおむね定着しています。豆電球とLEDを使った回路の問題や、緊急地震速報に関する問題に見られる、複数の観察・実験結果の比較、様々な情報の関係付けによる分析・解釈をする力が身に付いています。
- ▶ **課題** 炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を記述する問題では、炎の大きさや色、勢いなど、炎に当てる時間以外に関する解答や、無解答の生徒が多くいました。同様の傾向は、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる原因について蒸散以外を記述する問題でも見られることから、自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を整理して実験を計画することに課題があります。

(2) 質問紙調査に関する状況

本年度は算数・数学及び理科に関わる質問項目がそれぞれ十数問あり、相当な割合を占めています（理科は3年に一度実施）。小中学校における状況は以下のとおりです。

ア 小中学校共通

- ・「地域への関心の高さ」や「読書好きの子どもが多い」ことが例年までと同様に挙げられます。
- ・理科の授業で週1回以上観察や実験を行っている割合が全国平均と比べて20ポイント以上高い結果でした。
- ・自己肯定感の高まりが特徴として挙げられます。「自分には、よいところがあると思

いますか」という質問は、本調査が始まった平成19年から継続されてきている項目です。経年変化から小中学校ともに、肯定的な回答は増加傾向にあり、本年度調査では、小学校で8割超、中学校でも8割に迫る肯定的な結果となっています。

#### イ 小学校

- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」に9割の児童が肯定的な回答をしました。
- ・「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」との質問に、肯定的に回答した児童の割合は5割を下回りました。

#### ウ 中学校

- ・「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」の問いに、「家で読書や勉強をしている」と回答した中学生は、全国平均と比べて15ポイント高い状況でした。
- ・「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に、肯定的に解答した生徒の割合は、平成27年度調査に比べて、若干の増加は見られたものの、6割を下回っています。

### 4 学力状況と相関関係のあった項目で今後大事に取り組みたいこと

- (1) 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会がある」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向があります。これは、昨年度の本市における分析と考察で、学力との相関がありつつも、課題として取り上げ、本年度力を入れている「総合的な学習の時間」の取り組みとも関係付けることができます。子どもたちの資質・能力を育成する具体的な学習過程の構築のために、好奇心や探究心、対象への親しみからくる願いや問いをもつことが大切です。また、総合的な学習の時間は、他教科とのつながりや活用の他に、積極的に社会参画しようとする態度を育てていくことも期待できます。それは対象を俯瞰して捉え、課題の探究から自己の成長と結び付けること、社会の形成者としての自覚をもつことにより育まれます。

さらに、松本版コミュニティスクール事業の観点から、子どもたちの活動や学習の場を学校から地域・社会にまで拡張し、自ら主体的に取り組むことができるよう、学校と地域とが連携・協働していくことも重要です。

- (2) 主体的・対話的で深い学びの視点から、「自分で計画性をもって勉強をすすめていくこと」、「児童生徒間の話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」と、各教科の平均正答率との相関関係はあるといえます。「何を学ぶか」を大切にしながら、「何ができるようになるか」の実現のために、「どのように学ぶか」を一層重視した授業改善を具現化していくことが求められます。

### 5 今後の対応

- (1) 各市立小中学校では、11～12月頃を目途に、他の客観的な評価テスト等も参考にしながら、児童生徒の学力及び学習状況並びに今後の具体的な方策について保護者や地域に公表する予定です。
- (2) 学校指導課では、全市の分析・考察結果をもとに、各学校の成果や課題をもち寄って、次年度に向けての具体的な方策を検討する研修会を開催するなど、各校の更なる学力向上に向けた検証・改善サイクルの構築を支援していきます。

<b>問い合わせ先</b>	<b>【部課名】</b> 松本市教育委員会 教育部 学校指導課
	<b>【連絡先】</b> 電話：0263-33-4397 FAX：0263-34-3206



調査結果の概要及び主な特徴

「話すこと・聞くこと」について

- (A) 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話すことはよく定着しています。
- (B) 話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることや、計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることはよく身に付いています。

「書くこと」について

- (A) 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることはおおむね定着しています。
- (B) 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることはおおむね身に付いていますが、正答率からみると全国平均をほんのわずかに下回っており、更に力を伸ばしたい事項です。
 

<「課題及び指導改善に向けて2」参照>

「読むこと」について

- (A) 目的に応じて必要な情報を捉えることはおおむね定着しています。
- (B) 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことはおおむね身に付いています。
- (A) 登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることはおおむね定着していますが、正答率からみると全国平均をほんのわずかに下回っており、更に力を伸ばしたい事項です。
 

<「課題及び指導改善に向けて1」参照>

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について

- (A) 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことはよく定着しています。
- (A) 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使うことはおおむね定着しています。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題A 4 (登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題)

(1) 課題が見られた問題について

物語を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文(「草がそよぎをとめ、草の穂波の向うに沈む夕日が、あたり一面を火の海にしている。’)が心に残った理由として、適切なものを選択する問題です。登場人物の心情について情景描写を基に捉える際に、心に残った文の中に出てきた「火の海」という言葉から選択肢の中の「海の激しさ」という言葉を選択した児童が約2割見られました。「火の海」を「いかりやくやしき」の比喩として捉えられず、言葉の類似性や言葉自体の表すイメージで選んでしまったことが一つの要因だと思われま

4 登場人物の会話から、おたがいを感じる気持ちが伝わってくるから。

3 音を表す表現から、山の静けさと海の激しさが伝わってくるから。

2 景色や様子を表す表現から、コウタのいかりやくやしきが伝わってくるから。

1 登場人物の行動から、コウタのあわてている様子が伝わってくるから。

4

中西さんは、武蔵権子さんが書いた「くらやみの物語」を読み、心に残ったことについて説明することにしました。次の「物語の一部」をよく読んで、あとの「問い」に答えましょう。

(物語の一部)

(問い) 中西さんは、特に心に残った文として——部を取り上げ、その理由について説明しようと考えています。理由として最も適切だと考えられるものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

■ 物語のこれまでのあらすじ  
 五年生の夏休みの終わりに、コウタは、カクローをよくめた製の仲間と花火大会を計画していた。お金を出し合って買った花火は、コウタの家の物置に入っていた。しかし、その花火は計画の当日にコウタの母親に見つかり、水につけられてしまふ。コウタは、そのことをカクローに伝え、カクローと自転車で仲間のもとに向かい、報告をする。そこでコウタは仲間の一にに厳しくせめられてしまふ。

(武蔵権子「くらやみの物語」による)


## (2) 指導の改善・充実に向けて

問題で取り上げられた文を読むときに、その文が何を表しているのかを考えて読むことが大切です。物語を読むときには、登場人物の心情が暗示されている情景描写を探したり、その言葉から受ける印象について話し合ったりすることで、登場人物の心情を想像する力が身に付きます。また、言葉の比較などを通して、語彙を増やすことも、想像力豊かに文章を読むことにつながります。

## 2 調査問題B②(一) (目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題)

### (1) 課題が見られた問題について

**かみかみあえ**



※「するめ」ニイカを平した食品

「紹介する文章」

「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだてです。そのため、このような名前がついています。するめのはかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいます。

「おすすめする文章」

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんで食べることから、このような名前がついています。おうちのの人に、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニューとしておすすめします。するめのはかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいて、たまらないおいしさです。特におすすめしたい理由は、次の二つです。一つ目の理由は、「かみかみあえ」が、人気のこんだてであることです。六年一組で以前行ったアンケートでは、サラダやあえ物のうち、好きなこんだての上位三つに入っていました。六年一組では、「ツナマヨサラダ」と同じくらい人気があるこんだてです。きっと、ほかの学級でも好きな人が多いと思います。二つ目の理由は、「かみかみあえ」にむし歯を防ぐ効果があることです。同じサラダやあえ物の中で人気のこんだての一つである「ツナマヨサラダ」と比べると、「かみかみあえ」の方が、よりむし歯を防ぐ効果があります。「かみかみあえ」は、おいしくて、みんなに人気があり、歯の健康を保つことにもつながる「かみかみあえ」をぜひ、おうちのメニューの一つに加えてください。

「星野さんが『紹介する文章』をもとにして書くときに、『おすすめする文章』の最初の部分にその番号を書きましょう。」

- 1 疑問を提示し、読者が興味をもって読めるようにするため。
- 2 自分が伝えたいことを述べ、読者の理解を助けるため。
- 3 具体的な例を多く挙げ、読者に納得してもらうため。
- 4 自分の経験を述べ、読者の経験と比べて考えてもらうため。

この問題では「自分の考えの中心を冒頭に位置付けることで、推薦する理由についての相手の理解が明確になるという効果があることを捉えること」が求められます。

【おすすめする文章】の冒頭（➡）の部分には、星野さんが伝えたいことが書かれており、読者の理解を助けているため、選択肢2を選ぶことが正しい答えです。しかし、（➡）の部分の中だけを手がかりに、「サラダやあえ物」という複数の具体例から、選択肢3を選んだと思われる児童が2割強見られました。また、これまで読んできた説明文には、冒頭に疑問を呈する文体が多かったことが、1割ほど選択肢1を選ぶ誤答につながった要因と考えられます。文中や問題文の一部に対して反応してしまい、全体を読み取れなかったことが根底にあると思われます。

## (2) 指導の改善・充実に向けて

文章を書くためにいくつもの情報を集め、メモを活用する際に、目的に応じて並べ替える力や取捨選択、要約する力が必要です。そのためには全体として何を一番伝えたいのかを考える中で事実や事柄を明確にすることはもちろん、「〇〇だから□□である」と、理由と結論を関係付けながら全体像を見通していることが大切です。普段からいろいろな物事に関心を持ち、書く場面だけでなく話す場面においても同様の活動を重ねることが、力を付けていくことにつながります。更に、国語の基礎である言葉を豊かにしていくことは、文章を正しく理解していくために必要です。多くの文章に触れることは、場や状況に合った言葉の選択ができるような力を付けることにつながると考えられます。

調査結果の概要及び主な特徴

□ (A・B) 全国平均や県平均と比較して、無解答率が同程度か低くなっており、特にB問題ではほとんどの問題で低くなっています。

「話すこと・聞くこと」について

- (A) 話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことについてはよく定着しています。
- (B) 質問の意図を捉えたり、必要に応じて質問したりすることについてよく身に付いています。

「書くこと」について

- (A) 書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することについてよく定着しています。
- (B) 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことについて全国平均とほぼ同程度ですが、正答率から見ると課題があります。 <「課題及び指導改善に向けて2」参照>

「読むこと」について

- (B) 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することや登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることは身に付いています。
- (A) 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることについて課題があります。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について

- (A) 文脈に即して漢字を正しく書くこと・読むことについてはよく定着しています。
- (A) 昨年度、課題があった行書の基礎的な書き方について、向上が見られました。
- (A) 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことについて課題があります。 <「課題及び指導改善に向けて1」参照>

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題A 8 (四) (目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことができるかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

「心を打たれる」の意味を問う選択肢は、全国と同程度の正答率でしたが、「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く問題に課題がありました。条件の一部である「心を打たれた」の主語を明確にして書けずに誤答するということが多く見られました。

(2) 指導の改善・充実に向けて

主語の理解が曖昧であり、主語が書けないと考えられます。文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりする指導が必要です。

文を書くときには、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に伝わ

<p>2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。</p>	<p>1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。</p> <p>心を打たれる</p> <p>1 遠慮する。</p> <p>2 感動する。</p> <p>3 一つのこと集中する。</p> <p>4 あれこれと心配する。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

るように書くことができているかを吟味するように指導することが大切です。また、文章の中で省略された主語を検討することや、「書くこと」の学習との関連を図り、推敲の際の観点の一つとして取り入れることも効果的だと思います。

## 2 調査問題B 1 (三) (目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができるかをみる問題)

### (1) 課題が見られた問題について

段落Aと段落Bに書かれている内容を読み取り、文章の中心的な部分を整理して二つある理由を合わせて記述する必要があります。理由が二つあることを捉えられていなかったり、「また」といった語句に注目できなかったりしたため、その一方しか書かれていない生徒が多く見られました。設問文に「理由を二つ書きなさい」という指示がないことも、理由を一つしか書かなかった要因だと思われます。

### (2) 指導の改善・充実に向けて

筆者の論の展開を適切に捉え、根拠や理由が書かれている部分を読み取る力を付けることが必要です。そのために、文章の構成や展開の仕方について、自分の考えをまとめたり評価

し合ったりする等の学習を積み重ね、その中で、段落の始めにある指示語や接続詞及び同じような働きをする語句に着目して読むことが大切になります。また、文章を要約することや自分の意見を整理してまとめるなど、日頃から短い文章を書く活動を授業に位置付けていくことも大切です。

<p>三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。</p>	<p style="text-align: center;">段落B</p> <p>また、「無用」の意味が「してはならないこと」であると分かっていたとしても、「天地してはならない」では、意味が通じません。「天地無用」は、「天地を逆にする」ということ無用」のように、傍線部に当たる内容が省略された言い方になっています。字面だけを見ても、そのことは分かりませんから、本来の意味で読み取るのは難しいでしょう。</p> <p>「落書き」や「立ち入り」とは違って、「天地」という言葉自体には「してはならない」というような内容がありません。「逆にする」という省略部分に気づかなければ、「無用」の意味は「役に立たないこと。いらないこと」や「用事が無いこと」に取られかねないので。その結果、「天地はいらない」上下は気にしないでいい、「天地に用事はない」天地は関係ない」などと解釈されることになりやすいと考えられます。</p> <p style="text-align: center;">…後略…</p>
	<p style="text-align: center;">段落A</p> <p>②の例にあるように「天地無用」の「無用」は「してはならないこと」という意味です。かつて、アニメ番組『ドラえもん』の主題歌の中に「落書き無用」という言葉がありました。これは「落書きをしてはならない」という意味で、「天地無用」も同じ使い方です。</p> <p>このように「無用」の用法は、かつては注意書きなどによく見られました。しかし、現在は「落書き禁止」「立入禁止」など、「禁止」という言葉を用いたり、もっと丁寧な「…しないでください」、「…はご遠慮ください」などと書かれたりするようになっていきます。そのため、「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味での使い方があること自体、わかりにくくなっているのかもしれない。</p> <p>「岩波国語辞典 第7版新版」(平成22年・岩波書店)          むよう【無用】①役に立たないこと。いらないこと。「心配御—」②してはならないこと。「立入り—」          「天地—」(上下を逆にしてはならないという注意書) ③用事が無いこと。「—の者、入るべからず」</p>

調査結果の概要及び主な特徴

「数と計算」について

- (B) 示された考えを解釈し、式に表すことなどについてはおおむね身に付いています。
- (A) 2種類の数直線を用いて、小数の除法の意味について考察する問題に課題があり、全国と比較してやや下回っています。

<「課題及び指導改善に向けて1」参照>

「量と測定」について

- (A・B) 全国と比較してほぼ同程度です。二つの量に関連付けた表を読み取ったり、角の大きさを捉えたりすることはおおむね身に付いています。

「図形」について

- (B) 図形の構成要素や性質を基に、角の大きさの和について説明することはおおむね身に付いています。
- (A) 円周率の意味について理解することに課題があります。
- (B) 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から、条件に合う図形を見いだすことにおいては全国と比較してやや下回っています。

<「課題及び指導改善に向けて2」参照>

「数量関係」について

- (A) 全国と比較してほぼ同程度です。グラフの特徴を読み取ることはおおむね定着しています。
- (B) 全国と比較してほぼ同程度ですが、記述や表現の問題における無解答率がやや高いです。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 A 1 (2) (針金の長さの 0.4m と、0.4m の重さの 60g と、1m の重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ問題)

(1) 課題が見られた問題について

1 に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができるかどうかをみる問題では、1m の重さ  $\square$  g の場所や、針金 0.4m の 0.4 の場所、0.4m の重さ 60g の 60 の場所を、正しく数直線に表すことに課題がありました。これは、数直線を用いて二つの数量関係を比較する考え方に十分に習熟しておらず、針金の長さ

(2) 針金 1m の重さが何 g になるかを考えます。

1m の重さを  $\square$  g として、針金の長さ

と重さの関係を下の図に表します。

針金 0.4m の「0.4」、0.4m の重さ 60g の「60」、1m の重さ  $\square$  g の「 $\square$ 」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。

ア から オ までの中から、あてはまるものをつづつ選んで、その記号を書きましょう。

の長さ

と重さの 0.4 と 60、1 と  $\square$  を対応させることができていなかったり、問題の意味を十分に理解できていなかったりすることが要因として考えられます。

## (2) 指導の改善・充実に向けて

乗数や除数が整数や小数である計算の学習において、演算決定をしたり、何を何で乗除すればよいのかを考えたりするために、具体的な場面をイメージし、図や数直線を用いる学習をしてきています。更にこの問題では、二つの数量関係を捉えるために、問題場面を整理しながら長さとの関係性を並べた二本の数直線で表現し、数量の関係を「見える化」することで、児童が“分かりやすい”と実感できるようにすることが大切であると考えます。

そのために、例えば、単位量当たりの大きさを求める学習や割合の学習など、様々な学習においても、問題場面を的確に捉えるために、二つの数量の関係を数直線で表すようにして、これまでに学習してきたことを日々の算数学習にすすんで活用しようとする態度を養うことが大切であると考えます。

## 2 調査問題 B 1 (1) (合同な三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ問題)

### (1) 課題が見られた問題について

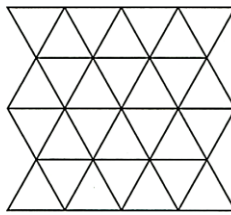
合同な正三角形で敷き詰められたうろこ模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができるかどうかをみる問題では、条件としてあげられている正三角形四つではなく、正三角形六つでできている図形を見いだし、「正六角形」を選択していたと考えられます。これは、模様の中に正三角形の数に関係なく、正六角形がすぐに見つけられることが要因として考えられます。

(1) 正三角形4つでできている図形を、うろこ模様の中から見つけます。どのような図形を見つけることができますか。

見つけることができる図形を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 長方形
- 2 直角三角形
- 3 平行四辺形
- 4 正六角形

※ 必要ならば、下のうろこ模様を使って考えてもかまいません。



うろこ模様

### (2) 指導の改善・充実に向けて

正三角形は一つの角の大きさが  $60^\circ$  であることから、正三角形と正六角形は、児童にとってつながりやすい二つの図形であると考えます。そして、長方形や直角三角形などの直角を含む図形は、うろこ模様の中からは見いだすことはできないことに気付くと考えられます。一方で、正三角形と平行四辺形の二つの図形の間には、児童も教師もあまり意識していないのではないかと考えます。これまでに学習した図形同士の間を繋ぎを繋ぎを考え、既習の図形を組み合わせる新しい図形をつくったり、ある図形を既習の図形に分割したりする体験も大切にし、図形についての見方や感覚を豊かにする必要があります。

調査結果の概要及び主な特徴

「数と式」について

- (A) 指数を含む正の数と負の数の計算をすること、簡単な比例式や二次方程式を解くことなど、基本的な計算技能については定着しています。
- (A) 数量の大小関係を不等式に表すことについて、正答率は半分に達しませんでした。全国との比較においてやや上回っています。
- (B) 計算の順序を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することについて、1種類に偏らない表現ができており、全国と比較してもやや上回っています。

「図形」について

- (A) 半円を回転させることで球が構成されることや、多角形の内角の和の性質についてよく定着しており、全国と比較してもやや上回っています。
- (A) 回転移動した図をかくことについて、昨年の平行移動の作図はおおむね満足できる正答率でしたが、今回は課題があります。 <「課題及び指導改善に向けて1」参照>

「関数」について

- (A) 座標平面上に点の位置を示すことについておおむね定着しており、全国と比較してもやや上回っています。
- (A) 関数の変域では、与えられたグラフから  $x$  の変域に対応する  $y$  の変域を求めることにかなり課題があります。

「資料の活用」について

- (A) 最頻値が資料の中で最も多く出てくる値であるとの意味・理解についておおむね定着しており、全国と比較してもやや上回っています。
- (A) 確率の意味について、昨年の「同様に確からしいこと」の意味と同じようにかなり課題があります。 <「課題及び指導改善に向けて2」参照>
- (B) 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することについてかなり課題があります。 <「課題及び指導改善に向けて3」参照>

全体を通して

- (A・B) 教科書に載っている例題のような問いを解く力は比較的定着しています。
- (A・B) 数理の本質にかかわる内容や、説明することに比較的課題があります。また、記述で答える問いについては無解答率も全国と同程度で課題があります。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 A 4 (3) (回転移動の問題)

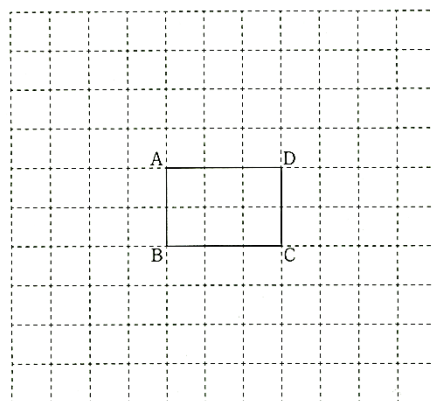
(1) 課題が見られた問題について

回転移動した図形をかく問題で、合同な図形をかくことはできるものの、問題が意図する位置にかくことができいません。昨年の平行移動に比べて移動の要素が増えるため、必要な要素を正確に処理しきれていないことがうかがえます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

回転移動の意味・理解を深めることが

(3) 下の図の長方形 ABCD を、点 A を中心として時計回りに  $90^\circ$  だけ回転移動した図形を、解答用紙の方眼を利用してかきなさい。



大切です。移動に必要な要素（回転の中心、向き、角度）が増えても粘り強く正確に処理することができるよう、一人一人の作図の検証を丁寧にする必要があります。

## 2 調査問題A<sup>15</sup>(1) (確率の意味を問う問題)

### (1) 課題が見られた問題について

1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子から確率の意味を問う問題で、相対度数が一定値に近付かないとする誤答が全国との比較でもやや上回る程度に多くありました。これは、実際に試行した経験では、「ばらつきが小さくなる」ほどの多数回繰り返すまでには至っていないために、一定値に近付くと認識することができていないことが考えられます。

(1) 表と裏の出方が同様に確からしい硬貨があります。この硬貨を投げる実験を多数回くり返し、表の出る相対度数を調べます。このとき、相対度数の変化のようすについて、下のAからEまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

A 硬貨を投げる回数が多くなるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は1に近づく。

I 硬貨を投げる回数が多くなるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は0.5に近づく。

U 硬貨を投げる回数が多くなっても、表の出る相対度数のばらつきはなく、その値は0.5で一定である。

E 硬貨を投げる回数が多くなっても、表の出る相対度数の値は大きくなったり小さくなったりして、一定の値には近づかない。

### (2) 指導の改善・充実に向けて

昨年も「同様に確からしいことの意味」の理解について課題がありました。このような数学の本質的な理解を深めるために、具体的操作を伴った試行経験を引き続き大切にしつつ、得られた結果について表やグラフにまとめ、そこから分かったことを数学的に表現する活動を取り入れることが考えられます。そのうえで、確率の意味を実感を伴って理解できるようにすることが大切です。

## 3 調査問題B<sup>5</sup>(1) (与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題)

### (1) 課題が見られた問題について

団体料金が通常料金の何%引きか調べるために、与えられた表から必要な情報を選んで立式する問題で、数値を「%」で表すために割合に「 $\times 100$ 」をしていない誤答が全国と比較してもやや多くありました。ここから必要な条件を選択することができても、「%」で表すための的確な処理ができていないことがうかがえます。

**5** 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人 3500円	1人 3200円
団体料金	1人 2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 里奈さんが作った表から、S社の場合、団体料金は通常料金の560円引きであることがわかります。この560円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

### (2) 指導の改善・充実に向けて

割合は、小学校で既習であるものの、最も定着が難しい内容の一つです。小・中学校の連携を大切に、生徒の実態把握に努めると共に、中学校の学びの中でも繰り返し扱う必要があります。



調査結果の概要及び主な特徴

- 主として「知識」に関する問題はおおむね定着しています。特に地球、生命の分野についてはよく身に付いています。
- 観察、実験の結果を整理し分析して考察することについて、得られたデータと現象を関係付けて考察することはよく身に付いています。前回の平成 27 年度調査の時に課題として挙げられた「実験結果を見通して実験を構想する」、「実験結果を基に自分の考えを改善する」においては改善の傾向が見られます。
- 主に「活用」に関する問題で、科学的な思考・表現において、実験結果を基に分析して、考察を記述する問題に関しては、全国平均や長野県平均に比べてやや上回ってはいるものの、課題があります。平成 27 年度の調査での「考察したことを一般化したり、理由等を文章で的確に記述したりすることに課題」と同様に、今回も実験結果を基に考察しそれを記述することに課題があります。これは質問紙の「考えを人に説明したり発表したりしていますか」で、平成 27 年度に比べて低下していることと関係があると考えられます。
- 既習の学習内容について、実際の自然や日常生活の中でどのように使われているか、また、それをどのように活用していくか、そういった活用能力に課題があります。これは質問紙の「理科で学習した事を普段の生活の中で活用できないか考えている」で、「当てはまる」と回答した児童が減少していることと関係があると考えられます。

課題及び指導改善に向けて

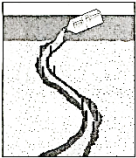
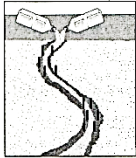
1 調査問題 2 (3) (地球に関する問題)



(1) 課題が見られた問題について

水の量を変えた実験

○地面のけずられ方についてくわしく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。

○1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。

実験結果	
1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす	2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす
	

(3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増え、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましょう。

- 1 外側も内側もけずられる。
- 2 外側も内側もけずられない。
- 3 外側だけがけずられる。
- 4 内側だけがけずられる。

一度に流す水の量と棒の様子から、流れる水の量が増えたときの地面のけずられ方を選び、選んだわけを書く問題です。この問題では、「外側だけがけずられる」を選択した誤答が多くありました。実験結果を正しく分析して捉えることに課題があると考えられます。また、「外側も内側もけずられる」と正しく選択できても、そのわけを正しく書くことができない誤答が多くありました。実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

例えば、問題にあるように溝の曲がっているところの外側の棒と内側の棒の倒れた本数から、どんな考察ができるかを話し合う学習活動が考えられます。このとき、内側はけずられないと捉える方がよいのか内側はけずられたと捉える方がよいのか検討する過程を

丁寧に扱いたいです。そして、記述に関しては、問題解決の様々な場面で自分の考えを表現したり見直したりするなど活動の積み重ねが重要になります。大雨が降ったら地面のけずられ方は変わるのではないかという疑問、それに対する自分の予想とその根拠、調べるための条件整理、実験結果の捉えから考察まで、問題解決の筋道を主体的に学ぶことができる授業を日頃より心掛けていくことが大切です。

## 2 調査問題 3 (4) (エネルギーに関する問題)

### (1) 課題が見られた問題について

太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係について、目的に合ったものづくりに適用できるかを検証するために出題された問題です。

水槽の中の水を冷やすために扇風機を用いて、目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた切れ込みのある箱の中で光電池の適切な位置や向きを問われた問題に課題があります。

生活経験を実際の自然や日常生活などに適用することや既習の学習内容の確実な定着が求められます。

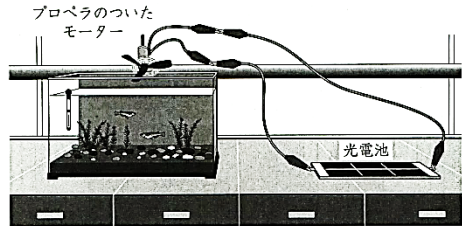
### (2) 指導の改善・充実に向けて

この問題にあるような、ものづくりの活動においては、目的を明確に設定した学習活動となるようにすることが大切です。そのために、児童が実際につくったものが目的に合っているか振り返り、必要に応じて修正する活動を保証していくことの重要性を意識して授業改善していくことが大切です。

更に授業の終末では、「授業で学んだことを、身の回りの事象に当てはめて考える」場面を積極的に取り入れていく必要があると思います。

また、誤答の中には、午後1時頃から午後3時頃の間にある太陽の位置を正確に捉えていない児童がいると考えられることから、既習内容である「日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の動きによって変わること（「学習指導要領」理科第3学年B(3)ア）」について確実な定着を図ることが必要です。

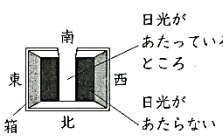
ひろしさんたちは、水温を下げるために、光電池で回るプロペラで起こした風を使うことにしました。



光電池の置き方を工夫して、午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにできないかな。

そこで、ひろしさんたちは、光電池を下のような切れこみの入った箱の中に入れて、日光のあたり方を調整することにしました。

<箱の中を上から見たようす>



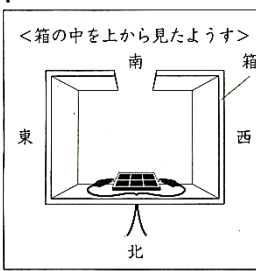
正午に箱の中には、右の図のように日光が差しこみます。

日光があたっているところ  
日光があたらないところ

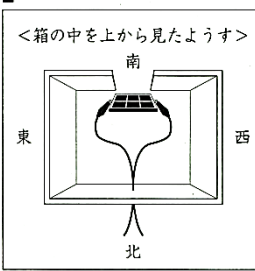
正午だと箱の中に、このように日光が差しこみ、日光があたっているところとあたらないところができるね。

(4) 午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにするには、箱の中で光電池をどのように置けばよいと考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

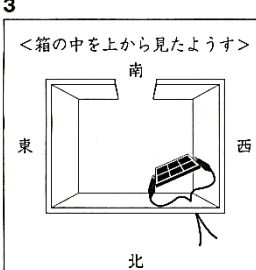
1 <箱の中を上から見たようす>



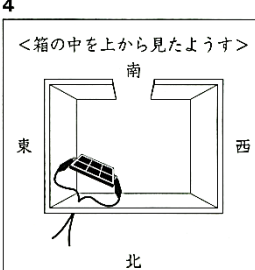
2 <箱の中を上から見たようす>



3 <箱の中を上から見たようす>



4 <箱の中を上から見たようす>



調査結果の概要及び主な特徴

- 基本的な科学的概念、技能においておおむね定着しています。(例えば、ガスバーナーの空気の量を調整する操作や、電流計は回路に直列に接続するという実験から学んだ技能や、電気用図記号についての知識、近年関心を高めていると考えられる、地震のゆれの強さが震度であることやS波によるゆれが主要動であること、緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できることなど。)
- 基本的な知識・理解を正しく身に付けることや(例えば、アルミニウムの原子の記号の表し方での大文字と小文字の違い、感覚神経という言葉を「中枢神経」と答えるなど)、知識・技能の活用(例えば、光の反射の規則性を用いてテレプロンプターに映る文字との関係からタブレット画面の文字の形を考える問題や、ガスバーナーの空気の量を変えて、発生するススの量を調べる実験で、「変えない条件」を指摘することなど)で課題があります。

課題及び指導改善に向けて

- 1 調査問題4 (1)(2) (ファラデーの「ろうソクの科学」を科学的に探究する問題)
- 調査問題9 (蒸散を科学的に探究する問題)

(1) 課題が見られた問題について

ガスバーナーの空気調節ねじの位置を問う問題は、日常的に操作を行っていることもあり、よくできていましたが、炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できるかどうかを問う問題で課題があります。

条件を全く書くことができなかった生徒も多かったですが、炎に関して金網に「当てる時間」以外に「炎の色」、「炎の勢い」など、ススの量には関係しない条件を答えた生徒の割合が多いのが気になります。

これは、日々の授業の中で、安全面への配慮から、ガスバーナーの正しい使い方を身に付けさせることが優先され、空

**レポート**

**【課題】**  
ガスバーナーの空気の量を変えて、炎の色と金網につくスス(炭素)の量を調べよう。

**【実験】**  
表1のように、変える条件と変えない条件を決めて、炎の色と金網につくススの量を調べる。

変える条件	空気の量
変えない条件	ガスの量, <input type="text" value="X"/> , . . . . .

**【結果】**

(1) 上の下線部について、空気の量を調節する場所を、下の図のアからエまでの中から1つ選びなさい。

(2) 表1の  に適する変えない条件がいくつかあります。変えない条件を1つ書きなさい。

気が入らないとなぜオレンジ色の炎になるのか理由を考えたり、ススが発生する様子を観察したりする学習が不足していることが考えられます。

また、日々の生活において、ものが燃える現象・ススが発生する現象との出会いが近年減っていること等も原因となっていると考えられます。そのため、ファラデーの不完全燃焼の説明文の意味が十分理解することができなかつたことが推測できます。

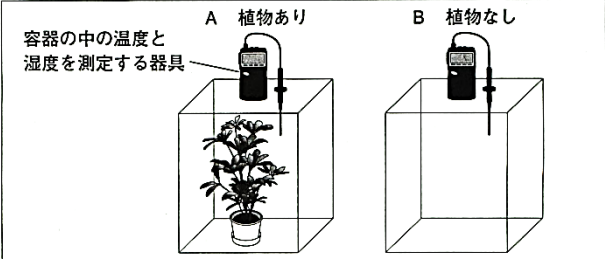
同様な傾向は、蒸散による湿度の変化を検証する問題でも見られました。蒸散という現象は理解しているものの、「水蒸気が植物から出る」以外に問題の条件で、湿度が上昇する原因を問われると、答えられない生徒が全国、長野県に比べわずかに多い結果となりました。湿度が上昇することについて、全国的な課題でもありますが、要因を幾つか指摘することができる科学的思考が十分に身に付いていないといえます。

**実験ノートの一部**

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

**課題**  
密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

**実験**



**結果**  
AとBの容器の中の温度は22℃で変わらなかった。

時間(時間)		0	1	2	3	4
湿度 (%)	A 植物あり	37	67	87	88	88
	B 植物なし	38	39	39	38	38

**考察**  
実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるといえる。

**新たな疑問**  
水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

(1) 下線部の植物の働きを何といいますか。下のAからEまでの中から1つ選びなさい。  
A 光合成    I 呼吸    U 気孔    E 蒸散

(2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

## (2) 指導の改善・充実に向けて

生徒質問紙の結果によると、理科の授業での実験や観察の回数は増えたものの、自分の考えや考察を周りの人に説明したり発表したりする学習活動や、実験や観察の進め方や考え方が間違っていないかを振り返る場面設定の時間がやや不足しているようです。生徒が自分の考えを周りの人の考えと比較検討し、実験や観察を通して修正や改善を加えていく学習づくりを進める中で、例えば、「蒸散と湿度」など複数の領域にまたがって「知識の活用」が図られるような教材化をしていくことが大切です。

中学校では指導内容が増えたことから、時間的にも、物づくりを取り入れることは容易なことではありませんが、実施する単元を決めだし、具体的に科学的事象に関わり、試行錯誤しながら原理や仕組みについて実感を伴った理解を促すことは、学習内容と日常生活や社会との関連を図る上でも有効です。

全体的な傾向

松本市の回答の状況が、全国平均と比べて大きく異なっている主な項目は、以下のものです。(カッコ内の数値は、全国との比較)

□「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

<当てはまる・どちらかといえば、当てはまる> 89% (+26)

・「放課後(週末)に何をして過ごすことが多いですか」(複数回答可)

〈放課後〉

- ・家で勉強や読書をしている。70% (+6)
- ・友達と遊んでいる。66% (-9)
- ・学習塾など学校や家以外の場所で勉強している。25% (-7)
- ・習い事(スポーツに関する習い事は除く)をしている。40% (-7)
- ・スポーツを(スポーツに関する習い事を含む)している。41% (-7)

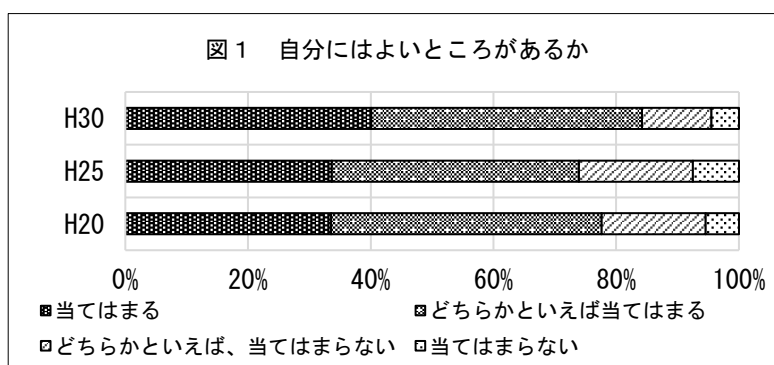
〈週末〉

- ・家で勉強や読書をしている。64% (+5)
- ・友達と遊んでいる。54% (-10)
- ・学習塾など学校や家以外の場所で勉強している。10% (-6)
- ・習い事(スポーツに関する習い事は除く)をしている。21% (-5)
- ・スポーツを(スポーツに関する習い事を含む)している。39% (-5)

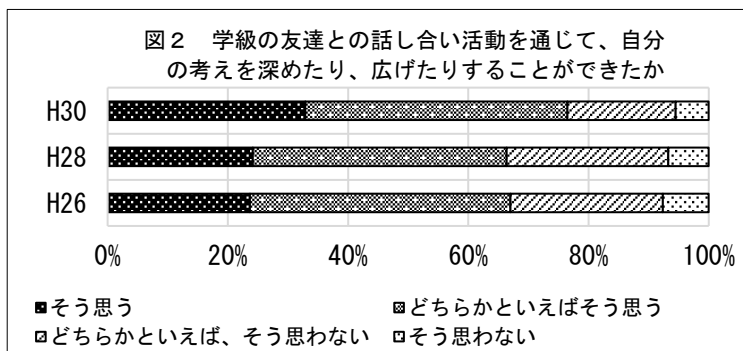
今年度の主な特徴

1 自己肯定感の高まり

図1は、「自分には、よいところがあると思いますか」という「自己肯定感」に関する質問の回答について、10年間の経年変化です。肯定的に答えた児童の割合が増え、10年前に比べ約7ポイント高くなっています。



自己肯定感を感じる児童の割合が増えてきた背景には、授業改善として取り組んできた「授業がよくなる3観点(ねらい・めりはり・みとどけ)」の授業スタイルが定着し、関わって学ぶ場面を大事に「話し合い活動」が行われてきたことが考えられます。それは、図2「学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」という「対話的な学び」に関する質問の回答について、肯定的に答えた児童の割合が、5年前に比べ約9ポイント高くなっていることからいえそうです。話し合いの中で、自分の意見のよいところを友達に認めってもらったり、友達の考えを受け入れたりする経験を積み重ねることによって、徐々に「自己肯定感」を感じることができるようになってきていると思われます。



また、松本市で平成25年に「松本市子どもの権利に関する条例」が制定され、市全体で子どもの権利を大事にした取組をしてきたことや、それを受けて各学校において人権教育月間などを設け、自己肯定感を高める取組を続けてきたことが、成果として表れてきたと考えられます。

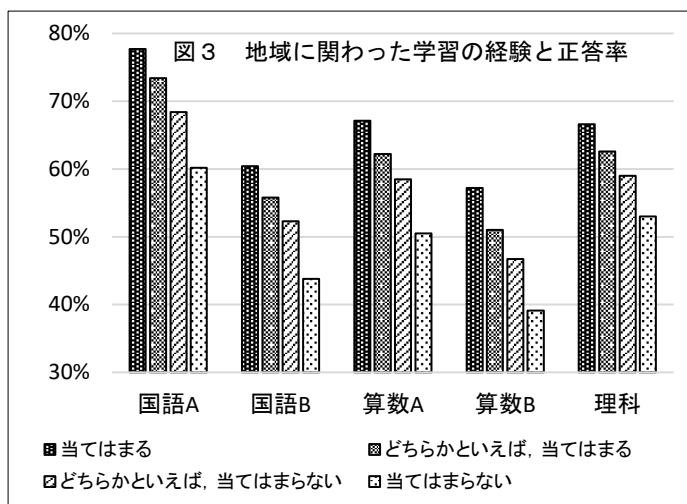
## 学力状況と生活・学習実態との相関関係

### 1 地域に関わった学習の経験と正答率

「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」の設問をグラフにした図3から分かるように、地域に関わった学習を経験している児童ほど、各教科の正答率が高くなっています。

身近な地域を題材にした学習は、児童が「おや、なぜ、どうして」という問題意識をもちやすく、子どもたちが身体全体で対象に働きかけ、関わっていく活動を仕組むことができます。こうして展開される主体的・対話的で深い学びにより、各教科において、見方・考え方を働かせ、目標とする資質・能力の育成が図られます。

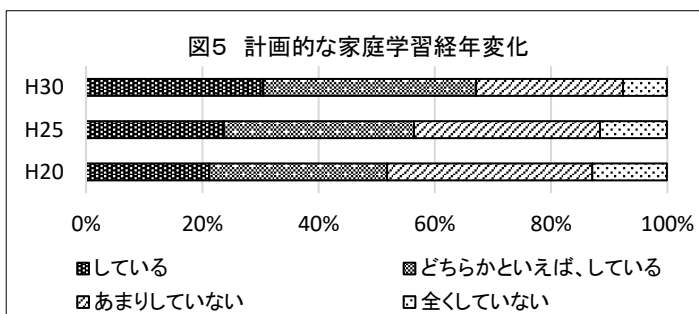
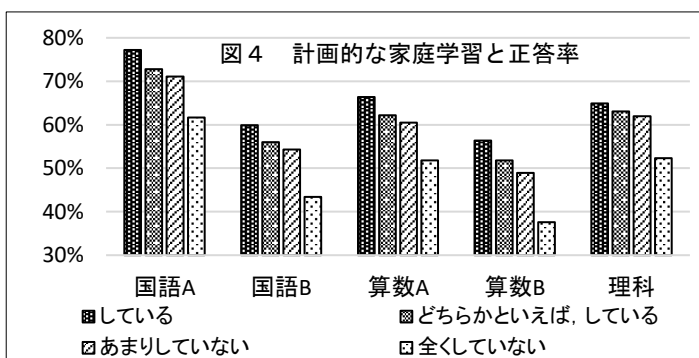
今後ますます家庭や地域の人々の積極的な協力を得て、児童生徒にとって大切な学習の場である地域の教育資源や学習環境を一層活用していくことが求められます。



### 2 家庭学習の状況と正答率

「家で計画を立てて勉強していますか」の設問をグラフにした図4から分かるように、計画を立てて家庭学習をしている児童と、そうでない児童では、各教科で15ポイント程度正答率に大きな開きがあります。学校と家庭が連携して、家庭学習の改善に取り組んできた成果も経年変化からは読み取れます(図5)。

今後、その中身の充実を図るために、家庭との連携を図りながら、授業と連動させたり、児童の興味・関心を大切にしたりして、学力の向上につながる学習習慣が確立するよう配慮していくことが大切です。



## まとめ

朝食をとっている(肯定的な回答:95%)、決まった時刻に起床し(肯定的な回答:90%)、就寝している(肯定的な回答:81%)といった基本的な生活習慣がきちんと身に付いている様子が今回もうかがえます。一方で、放課後の過ごし方や週末の過ごし方をみると、動画を見たり、ゲーム・インターネットをしたりしている児童が78%と多く、地域や家族以外の人と関わることが少ない様子もあります。学校での教育活動以外の場面でも活動できる場を、地域のさまざまなものを生かしながら、学校、地域、保護者が連携して構築していくことも必要と思われれます。

### 全体的な傾向

松本市の中学生の状況を比較すると、全国とポイントが大きく異なっている項目は次のようなものがありました。(カッコの数值は、全国との比較)

□「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

<当てはまる> 30% (+11) <どちらかといえば、当てはまる> 32% (+5)

→ 地域の行事に進んで参加している傾向が見られます。

・「放課後(週末)に何をして過ごすことが多いですか」(複数回答可)

〈放課後〉

・家で読書や勉強をしている。57% (+15) ・友達と遊んでいる。37% (-7)

〈週末〉

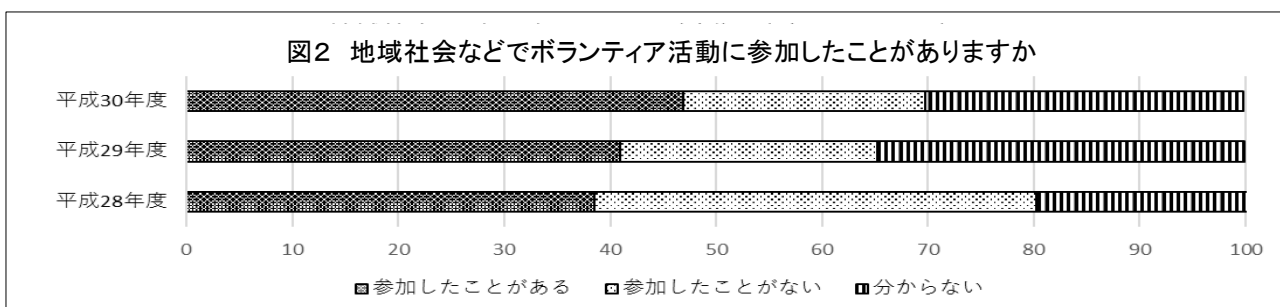
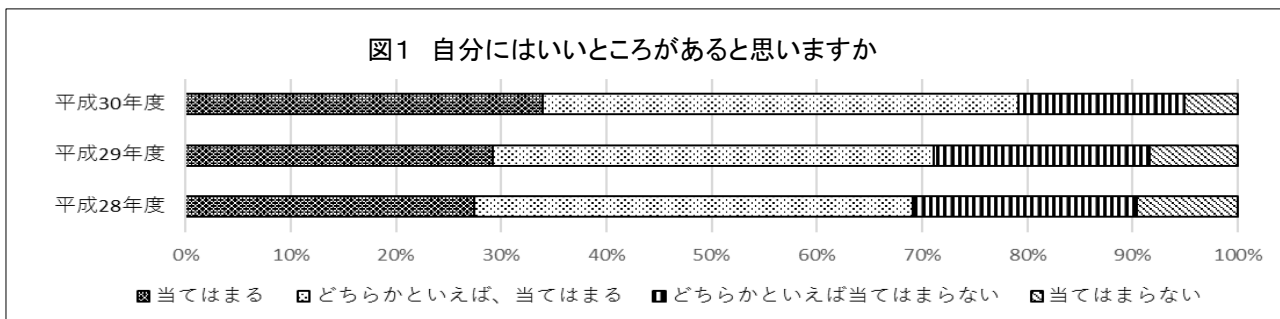
・家で読書や勉強をしている。56% (+15) ・友達と遊んでいる。43% (-13)

→ 放課後や週末は、友達と遊ぶより家で勉強や読書をしている傾向が見られます。

### 今年度の主な特徴

#### 1 自己肯定感の高まりと地域社会とのつながり

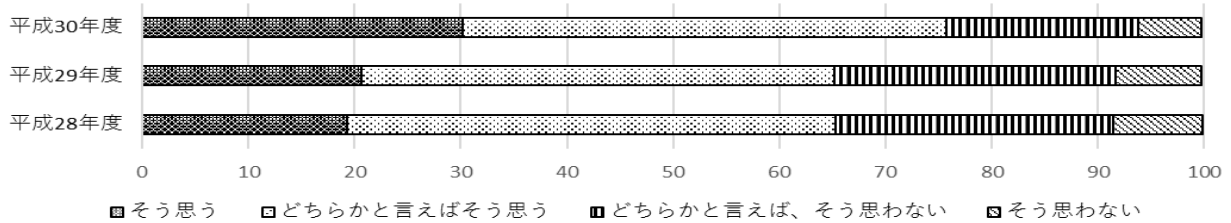
「自分には、よいところがあると思いますか」に約8割の生徒が肯定的に答えています(図1)。これは、松本市が「子どもの権利条約」を制定し、人権意識を高めるために取り組んだことが成果を出しはじめたとも考えられます。また、地域行事への参加が全国比で高い傾向が続いていることや、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか」(図2)に、「参加したことがある」と回答した生徒の伸びと連動していることから、地域社会とのつながりやボランティア活動への参加が自己肯定感の高まりに関係していることがうかがえます。



#### 2 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に、「そう思う」と回答した生徒の割合が増えており、前年比で10ポイント高くなりました(図3)。話し合いやグループワークが積極的に取り入れられ、生徒が授業形態の変化や成果を自覚した表れだと考えられます。各校で、主体的・対話的で深い学びを成立させるための授業改善が進みはじめたことがうかがえます。

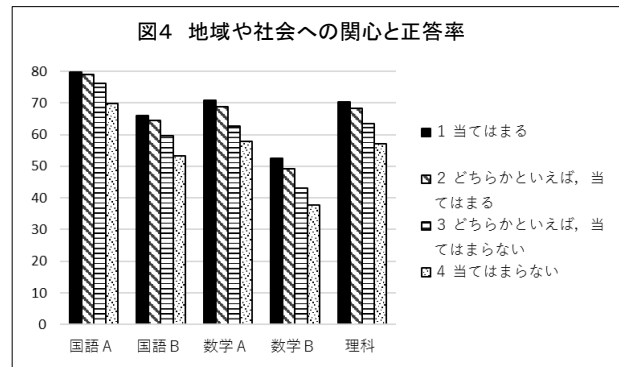
図3 生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



## 学力状況と生活・学習実態との相関関係

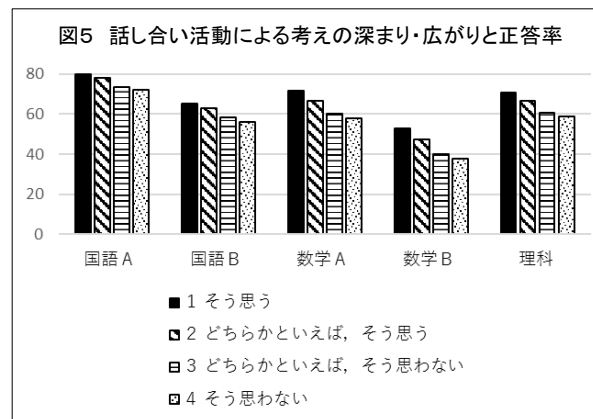
### 1 地域への関心と正答率

右の図4は、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の回答と各教科の正答率との相関図です。前述のように松本市は、地域への行事参加率が全国と比較して高い結果がでていますが、上記質問についても肯定的な回答の生徒は全国に比べて4ポイント高くなっています。図4からは地域への関心が高いほど各教科の正答率が高くなっていることが分かります。これは、松本版コミュニティスクールによる地域と連携した学校体制や、松本市が力を入れている総合的な学習の時間の取組により、地域へ出かけ、「ひと・もの・こと」から「問い」をもち、課題を解決していく学び方が各教科での活用へとつながっている結果であると考えます。



### 2 課題の解決や話し合い活動と正答率

右の図5は、「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対する各教科の正答率です。この質問に対して、肯定的な回答をしている生徒の正答率は、各教科ともに平均3ポイント高い結果となっています。しかし、肯定的な回答をしている生徒は全国比でほぼ同程度にとどまっており、自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動が授業改善の視点であることが分かります。今後学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」に向けて、総合的な学習の時間や、新しく教科となる道徳を軸としながら話し合い活動の充実を求め、各教科へとそれを活用していく必要があると考えます。



## まとめ

「子どもの権利条約」の制定や、松本版コミュニティスクール、総合的な学習の時間の充実など、松本市が力を入れて取り組んできたことに一定の成果が認められました。また、学校での授業改善の取組が進んでいる一方、上記のように話し合い活動では課題が見えてきました。また、朝食を毎日食べている生徒の割合（毎日食べていると回答：81%）が過去最低になるなど、家庭での課題も見られました。学校・家庭・地域がそれぞれの課題解決に努めると同時に、連携して教育力を高めていくことが一層求められています。



教育委員会資料
30.11.22
生涯学習課・中央公民館

## 報告第 4 号

### 中央公民館の会議室の整備について

#### 1 趣旨

現在、空きスペースとなっているMウイング南棟の1階部分を取得し、中央公民館の会議室として整備することについて報告するものです。

#### 2 取得物件の概要

- (1) 場所 Mウイング南棟1階北面店舗スペース(裏面配置図のとおり)
- (2) 面積 51.37平方メートル(登記面積)

#### 3 取得理由

- (1) 町内公民館館長会、全市版館報編集委員会、芸術文化祭実行委員会等及び中央公民館に關係する団体關係団体(以下「關係団体」という。)が希望する日時に柔軟に使用できる専用会議室が必要なこと。

ア 利用する曜日や時間帯によって会議室の予約が満室となるため、使用できないことや日程調整に苦慮している。

イ イベント等で全館貸し切りの場合、会議室が使えない。(年間30日程度)

- (2) 公民館研究集会等の際に分科会・分散会の会議室が不足すること。

#### 4 整備方針

- (1) 關係団体の専用会議室として整備します。

ア 予約システムには登録せず、一般利用への貸出は行いません。

イ 關係団体の利用は、無料とします。

- (2) 定員25人の会議室として改修・整備を行います。

- (3) 将来的な活用については、別途検討します。

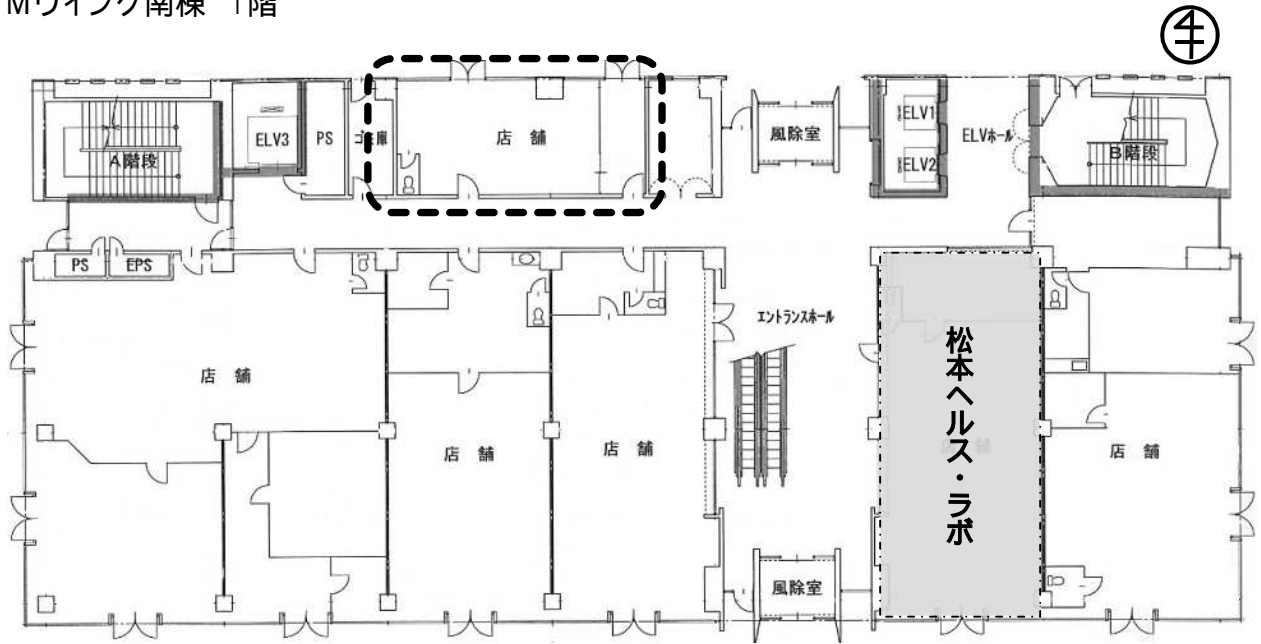
#### 5 今後の進め方

次期補正予算に取得費及び工事費等の關係予算を計上します。

担当	生涯学習課・中央公民館
課長	栗田 正和
電話	32 - 1132

【取得予定地】

Mウイング南棟 1階



## 報告第 5 号

## 史跡小笠原氏城跡の追加指定について

## 1 趣旨

平成30年11月16日(金)に開催された文化審議会において、史跡小笠原氏城跡のうち、林城跡(小城)の追加指定が答申されたことについて報告するものです。これにより信濃守護小笠原氏の居城跡である3城跡の指定が完了することとなります。

## 2 これまでの経過

29.2.9	井川城跡と林城跡(大城)が史跡指定
30.3.27	林城跡(小城)の学術調査報告書刊行
7.19	史跡追加指定意見具申書提出
11.16	文化審議会から林城跡(小城)の追加指定が答申

## 3 追加指定が答申された史跡の名称

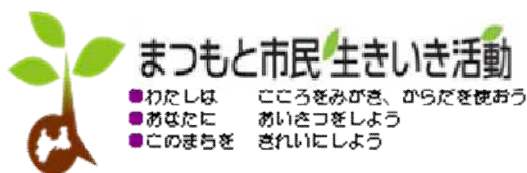
小笠原氏城跡 井川城跡 林城跡  
林城跡は大城・小城から構成

## 4 答申された史跡の価値

平地に築かれた井川城と山城の林城からなる信濃守護小笠原氏の居城跡。室町時代から戦国時代に至る領主の居城のあり方を示すとともに、室町幕府や鎌倉府、上杉、徳川、北条といった信濃をとりまく諸勢力の政治、軍事的な動向を知るうえでも重要とされています。

## 5 今後の進め方

- (1) 平成30年度末に官報告示を以て指定される見通しです。
- (2) 一連の指定が完了することから、今後、史跡保存活用計画の策定に着手します。



担当	文化財課
課長	大竹永明
電話	34 - 3292

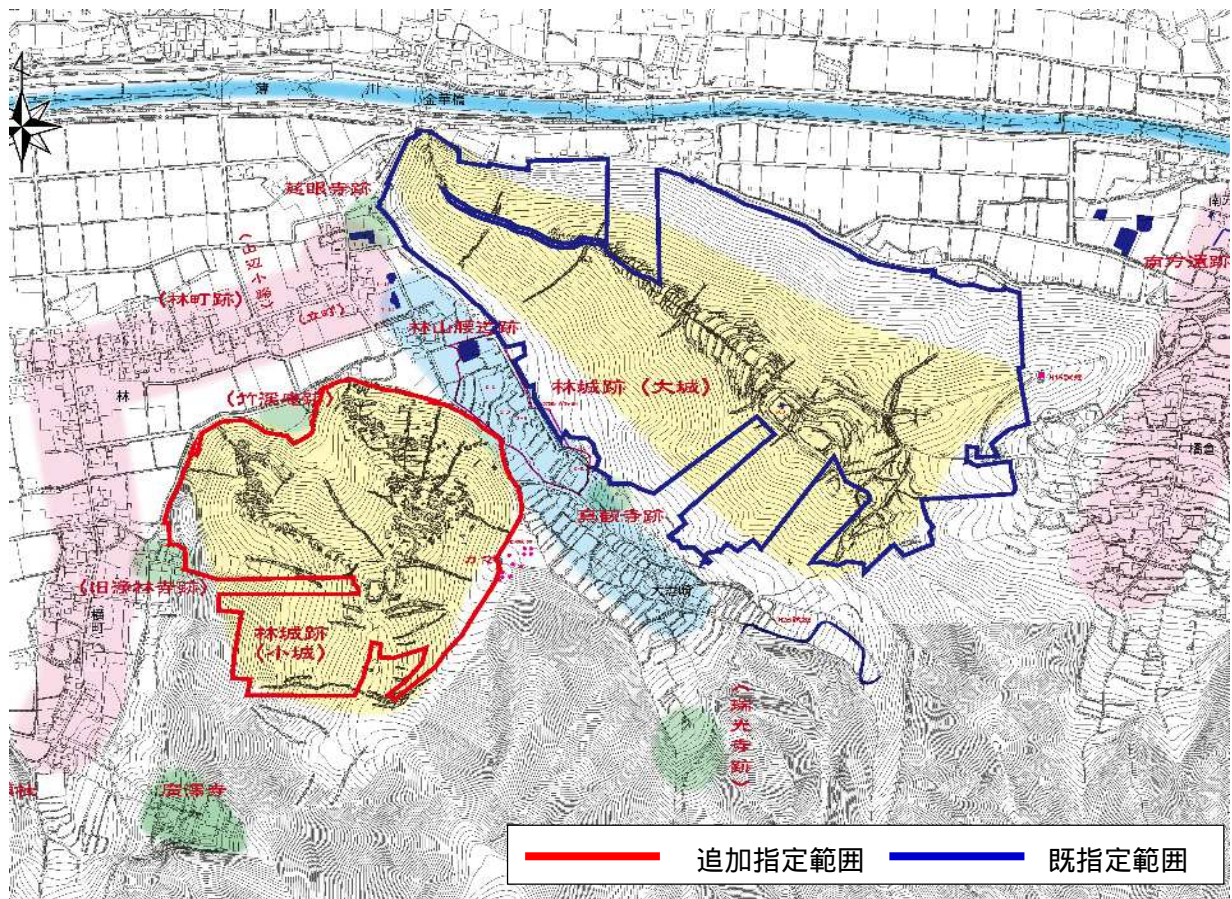


図1 史跡追加指定範囲



図2 林城跡(小城)主郭の石積み

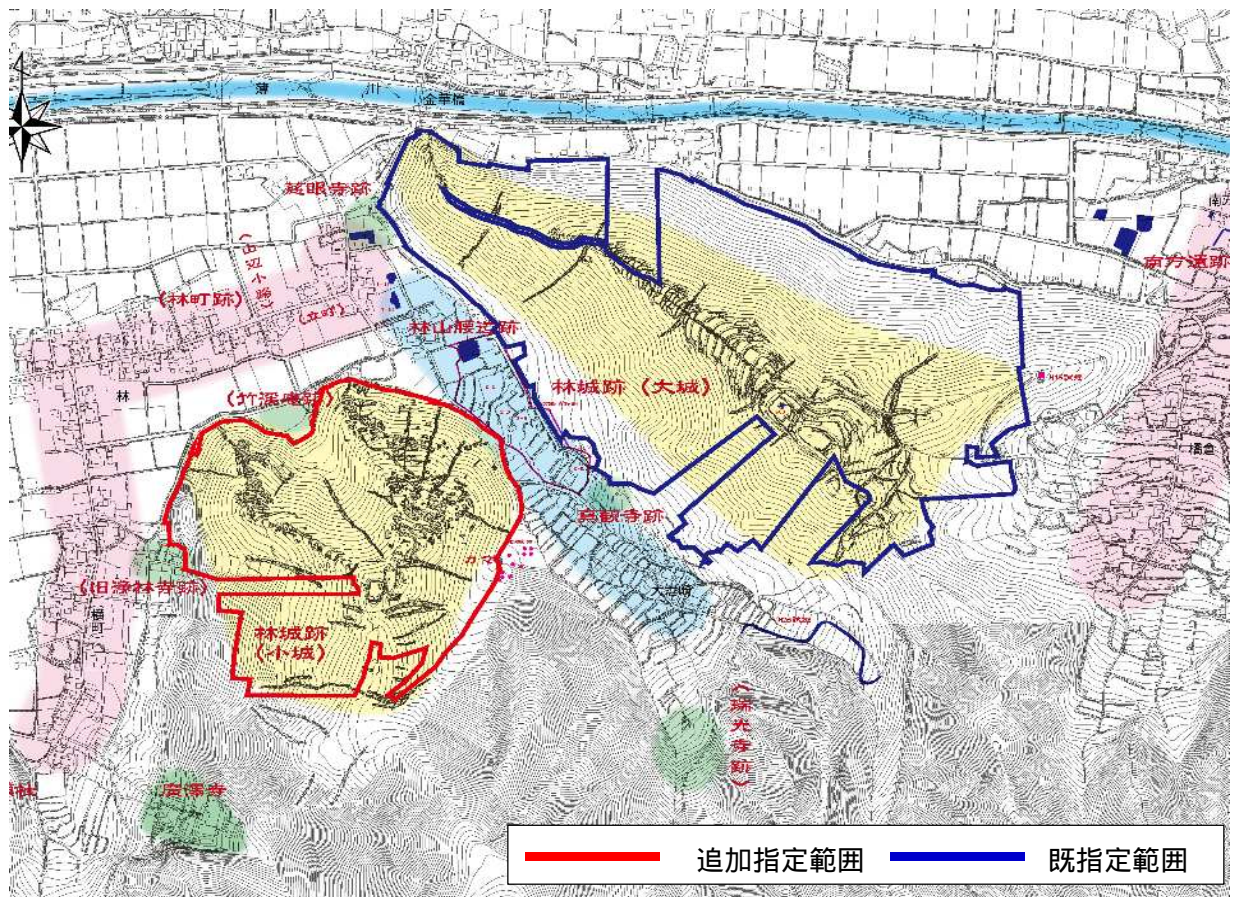


図1 史跡追加指定範囲



図2 林城跡（古城）主郭の石積み

## 周知事項 1

## 平成31年松本市成人式の開催について

## 1 趣旨

大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を祝い励ますため、平成31年松本市成人式を開催することについて周知するものです。

## 2 式典概要

- (1) 日時 平成31年1月13日(日) 13時～13時55分  
 (2) 会場 松本市総合体育館 メインアリーナ  
 (3) 主催 松本市、松本市教育委員会  
 (4) 企画運営 平成31年松本市成人式実行委員会(新成人12人)  
 (5) 内容

司会：実行委員2名

13:00	開式のことば	実行委員
13:01	国歌斉唱	
13:05	主催者式辞	市長
13:10	来賓祝辞	市議会議長
		町会連合会会長
13:20	来賓紹介	実行委員
13:25	新成人の抱負	新成人代表(実行委員)
13:30	新成人の親のメッセージ	新成人の親代表
13:35	記念品贈呈	贈 教育長
		受 新成人代表(実行委員)
13:40	企画映像	実行委員会
13:50	ファンファーレ	松本市消防団 ラッパ隊
13:54	閉式のことば	実行委員

## 3 記念写真

卒業中学校単位で撮影 14時～15時(予定)

## 4 対象者

平成10年4月2日から平成11年4月1日までに生まれた方

	男	女	合計	
今回	1,150人	1,178人	2,328人	平成30年10月1日現在
前回	1,220人	1,112人	2,332人	

## 5 本年度の特色

### (1) テーマ「ペイント～自分色に～」

新成人が理想と情熱を持って、自分の人生を自分らしい色に染め上げてほしいとの思いを込めました。

### (2) 企画映像

ア 松本山雅の反町監督、俳優の佐藤二郎さん（信州大学卒業）のビデオメッセージ

イ 新成人を主演にしたミニドラマ

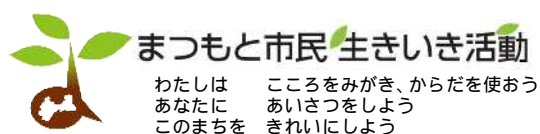
ウ 新成人の一言フリップ

### (3) 記念品 エコバッグ（当日配布）

レジ袋などの使い捨てプラスチックの削減のメッセージを込めました。

### (4) 若者の地元定着や進学などで市外に出た若者のUターンを促進するため、松本市のまちづくり、松本市の暮らしの魅力などを紹介するブースを設置します。

担当	生涯学習課
課長	栗田 正和
電話	32 - 1132



「学都松本へ」

教育委員会資料
30.11.22
博物館

## 周知事項 2

### 松本市立博物館本館・分館の企画展開催について

#### 1 趣旨

松本市立博物館と分館で下記のとおり企画展を開催することについて周知するものです。

#### 2 開催内容

##### (1) 松本市立博物館特別展

「城下町 まつもとのにぎわい 新収蔵 おがさわらきゅうばこじつしょ 小笠原弓馬故実書公開展」

##### ア 内容

今年度、松本市立博物館において購入した小笠原家の弓馬故実書を公開します。松本にゆかりがある小笠原家の歴史や小笠原家と松本の間を踏まえながら、紹介します。あわせて、松本城に寄せられた資料を紹介するコーナーを設け、松本市に新たに加わった資料を公開する機会とします。

##### イ 期間

平成30年12月8日(土)～平成31年2月17日(日)66日間  
平成30年12月29日(木)～平成31年1月3日(木)は休館

##### ウ 会場

松本市立博物館

##### エ 観覧料

大人200円 小人100円

##### オ 展示資料

弓、馬、礼に関する故実書 約30点  
松本城管理事務所の新規収蔵資料 数点

##### カ 関連事業

博物館学芸員による展示解説会、松本城管理事務所研究員による講演会を開催

##### (2) 松本民芸館企画展

「台湾とアイヌの工芸 - 衣装・木工・装身具 - 」

##### ア 内容

自然と意匠とのつながりや深い信仰のかたちがあられた、二つの民族の衣装や木工品などおよそ120点を展示します。



台湾の色鮮やかな衣装や婦人の礼装用布、力強く個性的な木工品の釣り道具入れや連盃、また、アイヌの祈りが感じられる木工品の彫りや祭事に使われるひげべらなど、それぞれの独特な文化の美しさを紹介します。

イ 期間

平成30年12月11日(火)～平成31年3月10日(日)

ウ 会場

松本民芸館

エ 観覧料

大人300円 中学生以下は無料(通常観覧料)

オ 展示資料 台湾とアイヌの工芸品 120点

担当	博物館
館長	木下 守
電話	32 - 0133



学都松本へ  
松本は屋根のない博物館！松本の歩みと文化を知る。  
松本の今にふれ、未来を思う。  
まるごと松本を知る旅のスタート地点です。



「学都松本」

教育委員会資料
30.11.22
文化財課

## 周知事項 3

### 松本城三の丸跡土居尻第9次発掘調査現地説明会の開催について

#### 1 趣旨

内環状北線整備事業に伴い、平成28年10月から実施している発掘調査において、その成果を市民に公開するため、標記現地説明会を開催することについて周知するものです。

#### 2 開催内容

- (1) 日時 平成30年12月16日(日) 13時から14時30分
- (2) 会場 松本城三の丸跡土居尻第9次発掘調査現場  
(松本市大手2丁目8-12他・朝日新聞松本支局北側)
- (3) 内容 調査担当者による調査概要及び遺構・遺物の説明  
なお、同調査地での現地説明会は平成30年2月11日に一度開催しておりますが、今回はその後の調査で新たに発見された遺構について開催するものです。
- (4) 調査面積 約1,800㎡
- (5) 調査成果
  - ア 総堀土塁の堀側裾部において、長さ約13メートル、幅最大3メートルの範囲で約210本の杭列が発見されました。
  - イ 発見された杭列は、主に敵からの進入に備えた防御用として設けられたと考えられます。
  - ウ 同調査地で出土している石組水路とともに、城郭の一部をなす設備として重要な遺構です。
- (6) 申込方法 事前申込不要
- (7) 参加料 無料

#### 3 周知方法

- (1) 松本市公式ホームページへの掲載
- (2) 報道機関への周知

担当	文化財課
課長	大竹 永明
電話	34-3292



まつもと市民生きいき活動

わたしは ころをみがき、からだを使おう  
あなたに あいさつをしよう  
このまちを きれいにしよう



「学都松本へ」

参考資料



絵図にみる調査地の位置



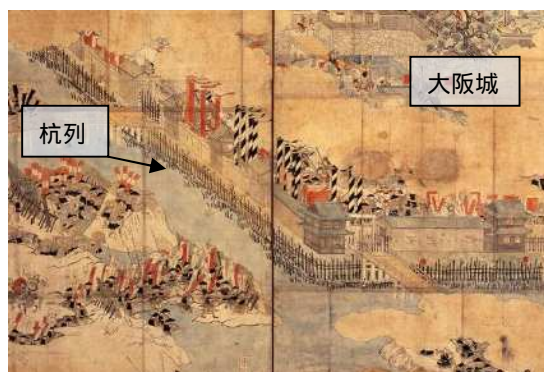
江戸時代の石組水路（東から）



土塁裾部杭列  
発掘作業の様子



杭列出土状況（東から）



「大坂冬の陣図屏風」に描かれた杭列